

所 属 鳥取県漁業協同組合（泊支所）  
氏 名 まつだ まさと  
松田 昌知さん（63歳）  
船 名 ずいこうまる  
瑞功丸 4.9トン  
漁業種類 刺網（ハマチ・サワラ）、潜水、アカイカ釣り



～泊の歴史を今に伝える、ベテラン漁師～

「今も昔も漁業が儲かるかは努力次第！」威勢のいい声で語る松田さんは、現在、泊の地区運営委員長で、泊の漁師の顔である。元々、家庭が漁業を生業としており、「自分がやる仕事は漁業しかない！」と、漁業一筋で過ごしてきた生粋の漁師だ。

長年、地元の浜を見てきたその目には、泊の歴史と未来が映っていた。「10年前と魚も海も生活サイクルもほとんど変わらない。しかし、船の数は半分になってしまった」。漁村の高齢化が進み、浜の賑わいが減りつつあるという切実な思いを語りながら、「新たに漁業を始める人にとっては大変な世界。それでも漁業の魅力を心から感じる人が来てくれれば…」と切に願う。

漁業の魅力について尋ねると、「自分の獲った魚にいい値が付いた時！」とのこと。「大漁の時も嬉しいが、魚を網から外したり、箱に仕立てたりする作業が大変になる割には、大抵、値崩れして面白くない」と苦い顔。大漁だからと手放しで喜べないのは、漁業の難しいところでもある。それでも40年以上も漁業を続けてこられたのは、魚を獲る仕事が面白いから、この一言に尽きるだろう。

～寝る！～

漁以外の時は、奥さんの家庭菜園のお手伝いや、役員の仕事をこなしたりと、海でも陸でも多忙の日々を過ごしている。休みの時の過ごし方を尋ねると、「寝る！」と一言。単純明快なその答えに、清々しい人柄とパワーを感じた。いつでもパワフルなその力強さの源は、しっかりとした睡眠なのかもしれない。

（文責：水本 泰）